

4月 仮設住宅訪問
福島県いわき市



1月 慰安婦像撤去を求める地方議員の会 訪米
カリフォルニア州 グレンデル市

平成26年度 第一号

さくらば節子市政報告



8月 上越総合防災訓練
名立地区



7月 農業振興学習会
十日町市



5月 石田議員と市政報告会 安塚区・大島区

ごあいさつ

皆様お元気でお暮しですか。最近日本では大変不安定な気候となり、大雨による災害が増えておりますが、これも地球温暖化の影響でしょうか。私たちの住む故郷を大切にしていこうために二酸化炭素を減らすことは喫緊の課題ですが、このたびエネルギー改革の一環として青色発光ダイオード（青色LED）を開発した日本人物理学者3人に2014年のノーベル物理学賞が贈られることが発表されました。消費電力が低く、省エネルギー対策となる青色LEDの開発により世界の電力市場、特に発展途上国は大きな恩恵を受けました。ろうそく、電球、蛍光灯に続く「第4世代の光」として、LEDが広く社会に普及する礎を築いたことが評価され、選考委員は「人類のより良い生活につながる発明に賞を与えるとしたアルフレッド・ノーベルの思いにまさに合致する」と讃えました。

このように人類に最大級の恩恵を与えるような発明を日本人がなしたことに深い感動を覚えます。日本人として大変誇らしいことですね。

1. 新年度から待望の人口減少対策特別委員会

現在日本が抱えている国内問題の中で最も深刻なものが人口減少問題です。

国の財政の根幹を担う税収はまさしく健康で働ける国民が多くいることによって支えられているものですから、人口減少はその土台を不安定にします。また私たち上越市のような地方都市においては人口の大都市への流失が伴ってその深刻さはさらに増します。

税収減と共に高齢化による福祉費・民生費の増加等が地方財政をさらに圧迫し中心市街地や中山間地域では防災・除雪治安維持等の地域運営自体が若い人手不足で立ち行かなくなってきました。

これらの諸問題を見つめたとき、私達は今

う一度市民生活にとって何が必要なサービスかと言う整理をするべきであり、同時に未来への投資として子供を生める世代に対して最大限の支援を行う必要があります。支援には①家庭を持ち子育てしやすい環境を整える。②子育て世代の親達が安心して働ける職場環境を整える。という二つの側面があります。

このような支援を国や自治体が一緒になって行いながら、社会には家庭を大切にする風潮を育むこと、子供達には未来に希望を持てるような教育を与えることが必要となることでしょう。特別委員会では研修討議を重ねながら有効な施策をまとめて早期に市長に提案していきます。

2. 新農政と中山間地域振興

政府の新農政により、これからの日本農業の在り方が大きく転換します。

未来へのビジョンがなかった日本農政に「大規模化して効率を上げ、日本農業を勝てる農業へと転換させる」という一定の方向をつけたという点に関しては評価できます。過去延々と続いた無策な農政がJAと補助金に頼りがちな米作農家を作ってきたと言われていました。また人口が減少傾向にあり、日本人の食生活も変わって行ったのですから、農家自身も将来を見据えて真剣な検討をしなくてはならなかったはずですが、十分に考えて来たとは言えません。また他の業種に比べて手

厚い保護を受けてきたことが平等ではないという指摘もありますが、食の安全を守るためにも農業には一定の保護政策がこれからも必要だと考えられます。

力のある企業は今後農業に参入して大規模農業を営んでいくことになり、効率は上がっていくでしょう。しかしこのままですと中山間地域などの小規模農家は生き残りが厳しくなるばかりです。瀬戸際の中山間地域農業をいかに持続させるのか、私は今年、国や県に働きかけるために国会議員や県議と連携してその問題を真剣に迫及して行きたいと考えております。

3. 私の一般質問

3月議会（3/19）

● 上越市の診療所について

当市には合わせて9つの診療所がありますが、雪も多いへき地に住みながら厳しい労働条件をこなさなくてはならない診療所医師の確保には苦勞しています。牧区においては昨年大変苦しい体験をしましたので、診療所医師確保に向けた市の対策を質問しました。市は医師の待遇改善、医師間での相互協力を促す仕組みづくりを約束しました。

● 中山間地域の農業振興について

大規模化できるような農地も少ない中山間地域においては新農政でも取り残されてしまい、残念ながらこのままでは米農家が生き残れない可能性が大です。また米以外の特産品を作り六次産業化を図っていくにも、担い手となる若者がいない現実を何とかしなければなりません。

上越市にはすでに櫛池地区農業振興会の活動にヒントを得て創設した12の地域マネジメント組織があります。この組織の活動の実態はどうか、今後どのようにして地域をけん引して行くのかを質問しました。

現状ではまだ補助金等の事務手続きのみを行っている組織が多く、このままでは創設の目的である「企画等を立て農業の自立を目指す実行力伴う組織」にはなれません。多くの農家が組織に入れば経営能力・事務能力の高い若手職員を雇うことも可能なので、今後は各組織の研修会を開くつもりだとのことでした。



6月議会（6/17）

子供たちと高齢者の居場所づくりについて

核家族化が進むにつれて田舎に残された高齢者が一人さびしく暮らすことが社会問題化しています。また都会で暮らしている親達も仕事が忙しすぎるからか、子供たちとはすれ違い、彼らを孤独に追いやってしまうという状況が生まれています。そのような家族の疎遠が理由で子供たちが犯罪に巻き込まれることも多くなりました。

私の持論では多世代同居が高齢者にとっても子育て世代の親たちにとっても、また子供たち自身にとっても大変良いと思います。しかしそれは簡単には実現しません。今すぐに行えることの一つは、人と人をもう一度結びつけるような居場所づくりではないでしょうか。そのような観点から、地域での「居場所づくり」について質問しました。

まず介護予防の観点から、元気な高齢者が気安く集い交流できる場を多く準備できないか、そして運営も高齢者の方々自身がやっていくような仕組み作りを工夫できないかと考えました。兵庫県稲美町では高齢者が持ち寄りの食材で自炊する活動をしています。長崎県佐々町では元気な高齢者に介護ボランティアの資格を与えて活動してもらっています。

次に子どもの育成の観点から、高齢者と積極的に交流できるような場を設けることの教育的価値を教育長にお聞きしました。上越市ではコミュニティースクール事業を通して地域の方々に学校運営に関わっていただいています。事情を共有しながら地域全体で子供たちを育てて行く、この取り組みは全国でも高く評価されているところですが、学校の帰りや休日に子供たちと高齢者の集える場があれば、双方にとって良い効果があるのは自明です。幸い板倉区の民間事業「ねごしの里」の取り組みや、柿崎区に先進の事例がありますので、そのような工夫を全市に広げられないかを伺いました。

市では今後可能性を見つけて、それぞれの事情に合った居場所づくりを考えることを約束してくれました。

4. 上越市の観光・産業

寺町・高田城址公園 回遊性のある街並みづくり

開府400年を記念したたくさんの行事が上越市で開かれています。皆さまもすでに記念DVDはご覧になったことと思いますが、本城御門の枳形土塁を通り抜けるバーチャル体験では、わくわくしながら御門を通り抜けて、本丸に入られたのではないのでしょうか。皆様全ての方が「この高田城を実際に自分の眼で見たい」と強く感じられたに違いありません。

また上越市は全国の寺町を擁する8都市と連携して、まちづくりを学ぶ「寺町サミット」を企画・実行しております。今年開催地は本市となっております。今年24日には浄興寺において基調講演やパネルディスカッション等が行われます。上越市の寺町は全国でもまれな65の寺院群を持ち、高田城址公園から続く通りは今もかつてのままに残っています。この美しい寺町通りを守り、お花見にも紅葉の季節にも城址公園から回遊することができる街並みづくりが必要ではないでしょうか。



そのほかにもテーマとして、松平忠暉公と五郎八姫の愛の物語や親鸞聖人の人生など、多彩なコースが組めそうです。

そのほかにもテーマとして、松平忠暉公と五郎八姫の愛の物語や親鸞聖人の人生など、多彩なコースが組めそうです。

さくらば節子 市政報告

平成26年度第1号

発行日：平成26年10月10日
発行：櫻庭節子
住所：〒943-0648
上越市牧区小川1590番地
電話・FAX：025-546-7835
電子メール：
office@sakuraba-setsuko.jp

公式サイトもご覧ください。
<http://さくらば節子.jp>
(FBもやってます)

女性の声を市政に

随想

東城町一丁目の自主防災組織を視察してきました。市の防災アドバイザーでもある石川氏は20年前の阪神大震災時に、地震による崩壊を運よく免れた住宅が地震後に起きた火災で一瞬にして失われてしまった惨状を見て、これからの防災には地域住民の力が結集しなくてはならないと強く考え、この組織を立ち上げたそうです。

組織には10種類ほどの役割分担がありますが、それぞれが100%地域ボランティアの方々に運営され、きびきびと動いておられました。この日のメニューは

- ①警報の合図で10班に分かれて集合
- ②避難所開設の合図を受けて、全体が避難所に向かう
- ③被害の内容が報告され、介護班が救援に向かう
- ④救急救命の指導
- ⑤防災グッズの説明
- ⑥エコノミック症候群防止体操
- ⑦炊き出し

上越市内では群を抜く熱心な防災訓練だと思えます。何よりもボランティアが個々の班に責任を持っている点安全班など毎日の実践をそのまま無理なく活用した点がこの防災組織がうまく働いている要素かも知れません。地域性やメンバー構成に違いはありますが、上越市の全自主防災組織がここを目標にして頑張りたいものです。

